

2011年1月期(みなし事業年度)事業報告書

(2010年4月1日～2011年1月31日)

1. 事業の概況

財団法人日本バレーボール協会は、2011年2月1日をもって、公益財団法人日本バレーボール協会に移行いたしました。法人移行は2008年12月に施行された公益法人制度改革に基づくものであり、従前の財団法人を解散し、新たに公益財団法人として設立登記をいたしました。これに伴い、当期はみなし事業年度の制度により、2010年4月1日から11年1月31日までの10カ月間で決算等を行うことになりました。

財団法人として最後の事業年度となる当期の最大の事業は世界選手権女子大会でありました。

この大会において、眞鍋政義監督率いる全日本女子は32年ぶりの銅メダル獲得という快挙を達成いたしました。2012年ロンドンオリンピックのメダル獲得に向け、大きな自信と手ごたえを手中にしたものと思われまます。

大会開催面では、初めての試みとして全日本女子が出場するゲームを全て国立代々木競技場で行いました。2006年の世界選手権男子・女子大会では大会単独で9,000万円ほどの赤字を計上いたしました。今回は大会単独で250万円ほどの黒字となりました。これは赤字を回避すべく関係各位のご尽力によるものであります。銅メダル獲得は21.6%というテレビ視聴率からみて、国民に感動を与えるとともに、ご協賛各社から称賛をいただくことにつながりました。

一方、全日本男子は世界選手権こそ故障者続出で13位という成績に終わりましたが、その後行われたアジア競技大会では金メダルを獲得、見事に復活を果たしました。

国内大会では、春の高校バレーのリニューアルを実施しました。これまでは3月の学期末に開催しておりましたが、これを新春の開催といたしました。この結果、3年生の出場が可能となり、名実ともに高校日本一を決める全日本選手権大会に生まれ変わりました。同時に、報道各社のご協力もあり、露出量が増大するなど、リニューアル初年度としては申し分のない効果を得られました。

普及面でのエポックは、ソフトバレーボールの小学校体育教材完全実施であります。2010年4月より、小学校体育科教材のなかにネット型ゲーム及びネット型ボール運動として、これまで以上に強いかたちでソフトバレーボールが導入されました。本会では、1990年に小学生指導者を中心に、バレーボールの普及・発展を大局的見地から考え、小学校体育科の教材にバレーボールを導入すべく、その取り組みを開始しました。このたびの完全実施化は小学校関係者の20年来の悲願が達成されたものといえます。

以上のような本会の活動の結果を運営数値面でみますと、事業収益は2,285,926千円、事業費用2,251,537千円、税引後当期正味財産増加額は15,523千円となりました。

2. 事業の内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行った。

1) シニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標である世界選手権大会、アジア競技大会（ともに4年に1回開催）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行った。

*男子 国内合宿・ナショナルトレーニングセンター（以下「NTC」という。）を主会場として100日間実施。

海外合宿・世界選手権直前調整合宿としてイタリアで9日間、アジア大会派遣前強化合宿として韓国で5日間実施。

*女子 国内合宿・NTCを中心に98日間実施。

海外合宿・イギリス、スイス、ブラジルで28日間実施。

(注1・シニアチームとはトップレベル選手から構成された日本代表チームである。)

*女子B 国内合宿・NTCを中心に49日間実施。

(注2・シニア女子Bチームとはシニア代表を目指す若手候補選手を中心に構成された日本代表チームでありAVCカップおよびアジア大会出場のために編成された。)

2) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

2011年度に開催されるユニバーシアード大会でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行った。

*男子 国内合宿・NTCを中心に16日間実施。

*女子 国内合宿・NTCにおいて5日間実施。

(注3・ユニバーシアードチームとは主に大学生を中心に構成された日本代表チームである。)

3) ジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるアジア選手権で優勝し世界選手権出場権を獲得することを目標に強化合宿を行った。

*男子 NTCを中心に20日間実施。

*女子 NTCを中心に17日間実施。

(注4・ジュニアチームとは主に20歳以下の選手を中心に構成された日本代表チームである。)

4) ユース男子・女子日本代表チーム強化合宿

*男子 3日間実施 *女子 10日間実施

(注5・ユースチームとは主に高校生を中心に構成された日本代表チームである。)

5) ビーチバレー日本代表選手強化合宿

国際バレーボール連盟ワールドツアー出場と各種国際大会の日程調整を行い、効率的な強化合宿を実施した。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) バレーボールアカデミー事業

全国からオーディション等で選抜された中学生をトレーニングセンターに集め、アカデミープログラムに基づき、トップレベルの指導体制による強化合宿を、年間を通して実施した。

2) 全国選抜中学生強化合宿、全国9ブロック選抜高校生強化合宿事業

9ブロック選抜高校生強化合宿には長身選手の発掘、育成、強化を目的にコーチ派遣を行い、巡回指導を実施した。また全国から推薦された有望中学生を一堂に集めた全国中学生強化合宿を初めて行った。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言を行った。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行った。

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣した。

4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行った。

5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行った。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣した。

1) シニア日本代表チーム

*男子 ワールドリーグ 2011 出場決定戦（開催国・日本、8/17～8/25）

チュニジアに2戦2勝、韓国に2戦2敗 出場権を得られず。

2010 世界選手権大会（イタリア、9/25～10/10） 13位

第16回アジア競技大会（中国、11/12～11/27） 優勝

*女子 ワールドグランプリ（ブラジル、日本、中国、8/6～8/29） 5位

2010 世界選手権大会（日本、10/29～11/14） 3位

*女子B 第2回AVCカップ（中国、9/19～9/25） 4位

第16回アジア競技大会（中国、11/12～11/27） 6位

2) ユニバ日本代表チーム

*男子 第2回 AVC カップ (イラン、8/1~8/7) 8位

3) ジュニア日本代表チーム

*男子 ジュニアアジア選手権大会 (タイ、10/1~10/9) 優勝

*女子 ジュニアアジア選手権大会 (ベトナム、9/12~9/20) 3位

男女とも 2011年ジュニア世界選手権の出場権を獲得した。

4) ユース日本代表チーム

*男子 ユースアジア選手権大会 (イラン、5/13~5/21) 5位

*女子 ユースアジア選手権大会 (マレーシア、5/20~5/28) 優勝

女子はユースアジア選手権の優勝により、第1回ユースオリンピックの出場権および2011年ユース女子世界選手権の出場権を獲得、第1回ユースオリンピック (シンガポール、8/14~8/26) に参加した (4位)。

5) ビーチバレー男女日本代表チーム

・ワールドツアー (世界各地で4月~10月まで開催、7、8月はほぼ毎週末開催) 14~18大会に派遣。その結果、ワールドランキング (2011.3月末) は男子最高位57位、女子最高位55位。

・アジア選手権大会 (中国、10/18~10/24)

男子 (朝日・白鳥) 5位、女子 (田中・溝江) 3位

・第16回アジア競技大会 (中国、11/12~11/27) 男女各2ペア出場

男子: 3位および9位、女子: 5位

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) 世界選手権大会

国際バレーボール連盟 (以下「FIVB」という。) が4年に1回開催する世界選手権女子大会を FIVB と協力し日本で開催。

開催期間: 10月29日~11月14日の17日間

<1st ラウンド 10月29日~31日・11月2日~3日>

Pool A 東京: セルビア・ポーランド・ペルー・アルジェリア・日本・コスタリカ

Pool B 浜松: チェコ・ブラジル・プエルトリコ・イタリア・ケニア・オランダ

Pool C 松本: アメリカ・クロアチア・ドイツ・カザフスタン・キューバ・タイ

Pool D 大阪: ロシア・トルコ・カナダ・韓国・中国・ドミニカ共和国

<2nd ラウンド 11月6日~7日・11月9日~10日>

Pool E 東京: Pool A①日本 ②セルビア ③ポーランド ④ペルー

Pool D①ロシア ②韓国 ③トルコ ④中国

Pool F 名古屋: Pool B①ブラジル ②オランダ ③イタリア ④チェコ

Pool C①アメリカ ②ドイツ ③キューバ ④タイ

<決勝ラウンド 11月13日~14日>

準決勝: Pool E①ロシア ②日本 ③セルビア ④トルコ ⑤ポーランド ⑥中国

Pool F①ブラジル ②アメリカ ③ドイツ ④イタリア ⑤キューバ

⑥オランダ

決勝: 1-2位決定戦=優勝 ロシア 準優勝 ブラジル

3-4位決定戦=3位 日本 4位 アメリカ

5-6位決定戦=5位 イタリア 6位 トルコ

7-8位決定戦=7位 ドイツ 8位 セルビア

9-10位決定戦=9位 ポーランド 10位中国

11-12位決定戦=11位 オランダ 12位キューバ

試合数 : 延べ 104 試合

2) FIVB ワールドグランプリ 2010

FIVB はアジアでの女子バレーボールの発展を目的としてアジア地区で本大会を毎年、開催しているが、本年度は予選ラウンドを FIVB と協力して開催。決勝ラウンドは中国で開催。選手団 120 人、競技役員 12 人、計 132 人が来日。

<岡山大会 8月13日~15日 3日間全6試合>

①日本 ②ポーランド ③ドイツ ④チャイニーズタイペイ

<東京大会 8月20日~22日 3日間全6試合>

①イタリア ②オランダ ③日本 ④ドミニカ共和国

3) FIVB ワールドリーグ 2011 予選大会

FIVB は毎年夏、その年の男子バレーボールの世界一を決める本大会を開催しているが、本年度は 2011 年大会の出場国を決める予選大会を FIVB と協力して開催。

開催場所: 長野 (ホワイトリング)

<1st ラウンド 2nd レグ 8月17日~18日 2日間全2試合>

日本 2勝 チュニジア 2敗

<2nd ラウンド 2nd レグ 8月24日~25日 2日間全2試合>

日本 0勝 韓国 2勝

結果 : 日本は 2nd ラウンド 2nd レグで惜しくも韓国に敗れ予選通過できなくなった。しかし、その後 オランダが本戦参加を辞退したため予選にチャレンジャーとして参加した日本が、2010 年度本大会 15

位で予選に参加した中国より優先されることとなり日本が自動昇格、2011年本大会出場決定となった。

②国際貢献・交流事業

1) 国際バレーボール連盟(FIVB)及びアジアバレーボール連盟(AVC)役員派遣事業
世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員に関して、本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行った。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技運営委員、審判員ほかを派遣した。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へボールほかバレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与するため、まず不要になったバレーボールの回収作業に着手した。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会（バレーボール教室）開催事業（参加者数・1,998名）

1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の8府県で実施した。

青森県、群馬県、富山県、愛知県、京都府、島根県、徳島県、鹿児島県

2) バレーボールを上手になろう～全国小学生バレーボール教室・指導者研修会（参加者数・選手1,935名、指導者393名）

本会では、小学生のバレーボール経験者を対象としてバレーボール教室を開催、併せて小学生指導者を対象に指導実技研修会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の8道県で実施した。

北海道、神奈川県、静岡県、滋賀県、兵庫県、山口県、香川県、長崎県

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催した。

1) 全国小学生バレーボール指導者講習会（参加者数・2,494名）

本会では、小学生の指導者を対象として第一次及び第二次講習会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の11都県で実施した。

和歌山県、東京都、新潟県、愛媛県、福岡県、神奈川県、広島県、長野県、岩手県、茨城県、熊本県

2) 全国中学生バレーボール指導者講習会（参加者数・150名）

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者講習会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の3都県で実施した。

熊本県、東京都、石川県

3) 都道府県別バレーボール指導者研修会（参加者数・499名）

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、本年度は以下の11県で実施した。

埼玉県、佐賀県、岐阜県、福井県、静岡県、高知県、青森県、山口県、山形県、茨城県、群馬県

4) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会（参加者数・969名）

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に開催しているが、本年度は以下の16都県で実施した。

東京都、岩手県、山形県、茨城県、山梨県、新潟県、石川県、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、岡山県、広島県、山口県、香川県、高知県

5) ビーチバレー指導者講習会（参加者数・30名）

ビーチバレー指導者を対象に、神奈川県で開催した。

6) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、指導員・バレーボール専門教科認定講習会（参加者数・291名）

日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を東京と大阪で開催した。

7) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会（参加者数・38名）

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を東京都で開催した。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催した。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
A級候補審判員講習会	22.08.10～13	東大阪市・近畿大学	68名
B級審判員講習会	22.08.13～15	東大阪市・近畿大学	78名
全国ビーチバレー審判講習会	22.06.05～06	川崎市・マリエンビーチコート	36名
全国ラインジャッジ・クリニック	22.04.29～05.01	大阪市・大阪府立体育館	112名
全国9人制審判講習会	22.04.04～05	茂原市・茂原市民体育館	205名
ブロックA級審判員講習会	22.04.01～06.30	全国各地	806名
技術統計上級判定員認定講習会	22.04.29	東京都・東京体育館	19名
	22.09.23	東京都・オリンピックセンター	20名
競技会事前講習会	22.07～23.01	全国各地	431名

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として以下の資格の認定登録を行った。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー
ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格の認定登録を行った。

A級審判員 A級候補審判員 B級審判員 C級審判員
レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定登録を行った。

技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は昭和 25 年(1950 年)に全日本 9 人制選手権大会に下賜されて以来、平成 22 年までの 61 年間、日本国内最高のチームに授与され、また平成 19 年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な大会に生まれ変わったが、本年はその 4 回目として以下の日程で実施した。

都道府県ラウンド：平成 22 年 4 月～8 月 各都道府県内体育館
(863 チーム・15,534 名参加)

ブロックラウンド：平成 22 年 9 月～10 月 各地域ブロック内体育館
(202 チーム・3,636 名参加)

ファイナルラウンド：平成 22 年 12 月 16 日～19 日 国立代々木競技場体育館
(48 チーム・864 名参加)

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、本年は 30 周年記念大会として以下の

日程で実施した。

都道府県大会 : 平成 22 年 4 月～6 月 各都道府県内体育館
(2,198 チーム・26,376 名参加)
(参考・都道府県内予選を含めると参加は 6,106 チーム)

全国大会 : 平成 22 年 8 月 11 日～14 日 東京体育館ほか 4 会場
(都道府県代表 110 チーム・1,479 名参加)
なお、例年同様、大会と並行して各選手村(宿泊施設)
で教育活動を行った。

③全国都道府県対抗中学大会(男女大会)

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、
各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共
に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年は以下の日程で実施した。

開催期間:平成 22 年 12 月 25 日～28 日

会 場:大阪府中央体育館ほか 3 会場 (97 チーム・1,455 名参加)

④全日本高等学校選手権大会(男女大会)

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として本年から装いも新た
に以下の日程で実施した。

開催期間:平成 23 年 1 月 5 日～9 日

会 場:東京体育館 (104 チーム・1,872 名参加)

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会(男女大会)

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年
も以下の日程で大学日本一を決める本大会を実施した。

開催期間:平成 22 年 12 月 25 日～28 日

会 場:東京体育館ほか 6 会場 (249 チーム・4,482 名参加)

⑥ビーチバレージャパン

ビーチバレー日本一を決める全日本選手権大会として、本年は以下の日程で
実施した。

男子大会:平成 22 年 8 月 12 日～15 日 神奈川県藤沢市鵠沼海岸
(56 チーム・112 名参加)

女子大会:平成 22 年 8 月 19 日～22 日 大阪府泉南郡淡輪海岸
(48 チーム・96 名参加)

⑦前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各
種別全国大会を実施した。

大会名等	実施期間	会場	参加チーム数・参加人数
全日本⑨実業団女子選手権大会	22.07.10～12	新潟県佐渡市	28 チーム・420 人

全国ママさん大会 (㊸)	22.07.22～25	群馬県前橋市	48 チーム・720 人
全日本㊸実業団男子選手権大会	22.07.23～26	栃木県鹿沼市・宇都宮市	67 チーム・1,005 人
全日本㊸クラブカップ女子選手権大会	22.08.11～14	大阪市	59 チーム・885 人
全日本㊸クラブカップ男子選手権大会	22.08.12～15	香川県高松市	64 チーム・960 人
全国㊸社会人男女優勝大会	22.10.08～17	鳥取市、宮城県仙台市	121 チーム・1815 人
全日本㊸総合女子選手権大会	23.01.20～23	京都市	52 チーム・780 人
全日本㊸総合男子選手権大会	23.01.27～30	大阪市	60 チーム・900 人
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	22.04.30～05	大阪市	32 チーム・576 人
全日本クラブカップ男子選手権大会	22.08.05～08	熊本県山鹿市・菊池市	64 チーム・1,152 人
全日本クラブカップ女子選手権大会	22.08.05～08	福岡県北九州市	56 チーム・1,008 人
全国ヤングクラブ優勝大会	22.09.25～26	大阪府門真市・大阪市	104 チーム・1560 人
全国6人制リーグ総合男女優勝大会	22.06.27 ～ 23.02.27	全国各地	63 チーム・945 人
以上㊸は9人制大会、その他は6人制大会			
全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	22.08.05～08	神奈川県川崎市	64 チーム・128 人
全日本ビーチバレーJエア男子選手権大会	22.08.05～08	大阪府阪南市	52 チーム・156 人
全日本ビーチバレーJエア女子選手権大会	22.08.12～15	愛媛県伊予市	43 チーム・129 人
全国ソフタバレー・ファミリーフェスティバル	22.08.06～08	鳥取県境港市	48 チーム・432 人
全国ソフタバレー・シルバーフェスティバル	22.10.22～24	鹿児島県霧島市	54 チーム・486 人
全国ヴィンテージ8'S 交流大会	22.11.19～21	沖縄県浦添市	30 チーム・450 人

㊸本会、財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施した。

1) 国民体育大会バレーボール競技

日程・平成 22 年 10 月 1 日～4 日 開催地・千葉県茂原市ほか

2) 日本スポーツマスターズ 2010

日程・平成 22 年 9 月 18 日～21 日 開催地・三重県津市ほか

㊸本会、財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施した。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

日程・平成 22 年 7 月 30 日～8 月 3 日 開催地・沖縄県宮古島市

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

日程・平成 22 年 8 月 5 日～9 日 開催地・沖縄県那覇市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程・平成 22 年 8 月 5 日～8 日 開催地・神奈川県平塚市

㊸本会、財団法人日本中学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施した。

全日本中学校バレーボール選手権大会 (男女大会)

日程・平成 22 年 8 月 20 日～23 日 開催地・岡山県岡山市

(5) 地域グループ育成強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会及び全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成、強化を目的に、団体運営ほか各種の支援を行った。

(6) マーケティング事業

バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動した。

本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないように適切な管理運営を行うとともに、日本代表選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努めた。

(7) バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の検定及び認定を行うとともに、バレーボール観戦を通して個人としてのマナー、エチケットなど、豊かな人間性を育むことを目的に、本会公認物品の販売を行った。

(8) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売した。

2010年度版ルールブックの当期販売状況は以下のとおりである。

6人制	4,268部 (29,386部)
9人制	3,529部 (31,846部)
ソフト	3,894部 (13,621部)
ビーチ	325部 (1,028部)

※カッコ内は2010年度版総販売数。

(9) Vリーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構が主催するVリーグについて、一部大会の開催権を取得し、バレーボールの普及、振興及び本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催するための準備を行った。(大会の開催は翌期になる。)

(10) その他

①財団法人日本体育協会が推進する国民スポーツ振興事業、財団法人日本オリンピック委員会が推進するオリンピック・ムーブメントほか諸事業に積極的に協力した。

②公益法人制度改革関連事項について

公益法人制度改革に係る法人移行準備を進め、2010年10月1日に内閣府公益認定等委員会に公益認定の申請を行った。同年12月に認定の答申を受け、2011年2月1日に公益財団法人の設立登記を行った。

以上